

○本調査研究の目的

新たな交通サービス・技術の浸透等と連携しつつ、モビリティの高度化及び接続改善により、公共交通を軸とするモビリティ全体の水準を高める施策のあり方について、欧州における事例調査を通し実効性のある計画策定及び事業の実施を通し把握。

○Sustainable Urban Mobility Plans (SUMP) 概要

・都市内及び近郊で人々及びビジネスのより良い生活・事業のため必要なモビリティ充実のため設計された戦略的計画であり、都市交通支援施策の一環として作成されたガイドライン。

○調査研究結果の概要

○SUMP策定上の特徴

- ・計画対象範囲や参加ステークホルダーの範囲が広く、計画対象期間も10～15年と長い
- ・上位計画連携、幅広いステークホルダ関与、市民参画SUMP策定上の取り組みの工夫や課題
- ・都市部での新技術活用や施策等による自家用車削減の工夫、地方部でのモビリティ確保の方策など

○SUMP策定の考慮事項（国・地域別の制度・資金）

- ・SUMPの義務付け有無等の施策実施及び立案策定の資金援助

○既存公共交通ネットワーク運営の特徴やサービス向上の工夫

- ・民間事業者の裁量意思決定から管理へ・共通化した、運賃及びダイヤ（基準策定）

○新技術による新たなモビリティの取り扱いと課題

- ・MaaS: 運賃統合のみならずサービス統合、カーシェア等民間企業との関係といった官民の役割分担
- ・デマンド交通：他の交通サービスと補完や連携を考慮
- ・カーシェア・バイクシェア: 導入すべき市場（都市・郊外）、空間確保、行政による監督といった課題
- ・自家用車活用：過疎地におけるマッチングアプリ活用、ボランティア輸送の活用